



教皇様の叢

Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticanoの転載許可済 © 1995 発行所 財団法人 精道教育促進協会 〒659 兵庫県芦屋市船戸町1-2-6 TEL.0797-31-3452・FAX.0797-31-3448

「めでたし、まことの御体」

(ご聖体の祝日に、ローマにて)

「めでたし、処女マリアより生まれ給いしまことの御体よ……」

ミサの後、会衆は神の御母の聖堂、サンタ・マリア・マジョーレ教会へ向かいます。キリストの御体の荘厳な祝日は、託身の秘義と密接に結び付いています。みことばはマリアから人間としての体を受け、マリアは神の母となりました。ですから、年に一度のキリストの御体を称える聖体行列の終点が、西欧で最も古いマリア聖堂の玄関前となっているのは当を得ています。

「めでたし、処女マリアより生まれ給いしまことの御体よ、人のために苦しみを受け、十字架の上にていけにえとなり給いし御者よ……」 十字架の上で成し遂げられた贖いの秘義は、洗礼者ヨハネが簡潔かつ正確に予告していたものでした。ナザレトのイエズスがヨルダン川にやって来るのを見たヨハネは言いました。「世の罪を取り除く神の子羊を見よ。」(ヨハネ1・29) 言い換えれば、彼は「人のために苦しみを受け、十字架の上にていけにえとなられた」と言ったのです。

「願わくは、臨終の戦いに当りて、あらかじめ天国の幸いを味わしめたまえ。」 聖体礼拝の典型でないとしたら、復活祭の聖体行列にはどんな意味があるのでしょうか? 私たちはこの神的食物の力を借りて、主の御体と御血のおかげで、人生の旅路をたどることができるので

感動的なミサを終えるに当り、若者の皆さんにお話ししたいことがあります。最新の回勅「生命の福音」を皆さんの手に委ねたいと思うのです。若者たちよ、生命の福音を世に広め、証ししてください。皆さんの内では生命が抑ええ難いほど力強く脈打ち、全身を満たしていることでしょう。しかし、それを感じるだけでは不十分です。まことに貴重な生命の真価を認め、味わい、愛するため、生命に関する真理の全てをよく理解しなければなりません。これこそ生命の民・生命のための民の集まりである教会が、新回勅「生命の福音」を通して人類に提案したいと願っていることなのです。心静かに読めば回勅全体の意図することがわかるでしょう。それは、生命を喜びと感謝をもって迎えるべき贈り物と考え、神の愛の旋に従って生き、責任をもって兄弟姉妹に仕

生命の文化を 広めよう

えるために身を捧げよう、という呼びかけです。確かにそこには厳しい要求があります。すなわち、断固とした、正当な「してはならない」という現代人への神の命令です。「殺してはならない」……それは常に人間の心に刻み込まれています。しかしこの「否定」は、生命への素晴らしい「肯定」から生じるものです。私が特別に皆さんに委ねるのはこの「肯定」、生命に対する「はい」です。若い皆さん、生命を弁護し、生命を守る使徒となってください。キリストをエルサレムに喜び迎えた若者たちのように、皆さんも贖い主に心を開き、主の民、生命の民、生命のための民となってください。生き生きとした熱意で死の文化を退け、生命の文化を推し進めてください! (九五・四・九、しゅろの日曜日)のミサの時、若者たちへ。)

を味わしめたまえ。」この大聖堂で、ローマの司教は聖体の制定を記念する主の晩餐の荘厳なミサを捧げます。聖体の秘跡にはキリストのいけにえが現存し

ます。「主の来られるまで、主のご死去を告げる。」(イコリント11・26)しかし、今日も教会は主を称えたいと望んでいません。そして、ミサの後で礼拝の行列が始まります。

「パンの形色のうちにごまことにまします隠れ給う天主、今うやうやしく御前に礼拝し奉る。」(アドロテ・デヴォテ)

偉大な神学者である聖トマス・アクイナスは、聖体を称える靈感を受けた詩人でもありました。典礼の中で私たちは、「いざ歌え、わが舌よ、栄えある御体の奥義を」(パンジェ・リンダワ)と、聖体賛歌の中でおそらく最も有名な「アドロテ・デヴォテ」を歌います。その中で「われは主を認むる力なきにより、我が心を全く主に従わせためまつる」と繰り返します。これが賛美、これこそキリストの聖体行列です。(…)

聖体ほどに崇高な祈りがあるでしょうか？ 聖体が教会の礼拝の頂点であり源であると公會議は教えています。(典札憲章、10番参照) ローマは聖体に養われてきたのです。聖体を賛美し、感謝を捧げ、許しを乞い願うのはそのためです。「めでたし、処女マリアより生まれ給いしまことの御体よ。」(九四・六・二)

日々の十字架を！

(フィリピンにて、教皇様のビデオ・メッセージ)

「私が去らぬなら、あなたたちには弁護者が来ないだろう。」(ヨハネ16・7)

これは最後の晩餐の席でイエズスが御父のもとに帰られることを告げた時の言葉です。「御父のもとに帰る」とはどういうことか、黙想してみてください。

私たち一人ひとりに関係があることです。イエズス・キリストの受難と死と復活は人類の歴史全体に影響を与え、その影響は以後の人間全てに及んでいきます。完全な幸福にそこがれる時、私たち皆が願う「新しい命」をもたらず力となるので

神のご計画は計り知れない神秘です。「みことばは肉体となって、私たちのうちに住まわれた。」(ヨハネ1・14)主は私たちと同じ肉体を取り、処女マリアから生まれ、自ら選んだ十字架上の死を通して、不従順で罪深い人類を御父に立ち返らせ、復活の希望を抱いて生きることができるようになってくださいました。主の生き方も御父のご計画に

の十字架のかたわらには、その母と、母の姉妹と、クロバの妻マリアと、マグダラのマリアが立っていた」こと、そして「愛する弟子」もそこにいたことを語っています。(19・25・26)

信仰あつい人々は、苦しむ人の子の背後におられる神の御子を見捨てませんでした。私たちにとっても、十字架上のイエズスは信仰の試金石、行いに応じて裁く神の審判なのです。

第十回世界若者の日は、ルワンダの人々との一致連帯のための日でもあります。ふりかかる艱難に打ちひしがれたルワンダの兄弟姉妹たちには、物質的な援助も必要ですが、生ける神の子としての尊厳の感覚を取り戻させてくれる励ましも必要なのです。皆さんが彼らのために捧げている犠牲によつて、彼らを慰めることができますように。犠牲は遠く離れた兄弟姉妹たちが忘れ去られてはいないこと、皆さんが彼らを本当に心にかけていることを示すものなのですから。

一人ひとりが主の言葉に従うかどうかを問われています。「私のあとに従おうと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を背負って従え。」(ルカ9・23)十字架とは、イエズスの教えにそぐわない考え方を捨

てること、キリストの弟子にふさわしくない望みや行いを捨てることです。皆さんは自分を変えてくれる恩寵の働きにまかせよう招かれています。キリストの十字架から流れだした恩寵は、特に赦しの秘跡にあずかることによつて皆さんの生活に入ってきます。皆さんのそばには、神の愛のこもったこの秘跡のための道具として働く多くの司祭もいるはずですよ。

主イエズス・キリストは最後の晩餐の席で仰せになりました。「私が去らぬなら、あなたたちには弁護者は来ない。」(ヨハネ16・7)ここにいる若者たちに聖霊を送り、主の十字架と各人が担うべき十字架とを愛することを教えください。カルワリオへの道をみあとに従いそは近く歩む者たちを助けてください。復活へと続くその道の彼方には、主が「御父の右に座して」おられます。

第十回世界若者の日を祝い、マニラに集う若者たちの心に、主よ聖霊を遣わしたまえ！ 彼らが恐れず寛大に、主の呼びかけに応えることができますように。「父が私を送られたように、私もあなたたちを送る。」(ヨハネ20・21)父である神に栄光がありますように。アーメン。(九五・一・十三)

神の前で悪事を働く者は誰も「死刑執行人」です。時には悪が栄え、人々は無力で悪を止めることができないように思えます。若者たちは多くの苦しみ、多くの不正、多くの暴力と死を前にして、いったい何ができるのかと問いかけています。それに答えるには、受難に登場する他の人物に目を向けねばなりません。

福音書はシモンという人物のことを語っています。「彼らは十字架を担わせようとして、その男を無理に呼び寄せた。」(マテオ27・32) また刑場まで泣きながらつき従ってきた婦人たち(同27・55ほか参照)のことも。言い伝えによるとペロニカという女性が布でイエズスの顔をふいた、とされています。ヨハネ福音書は「イエズス

入っていました。「兵卒たちは赤いがいをイエズスに着せ、茨のかんむりを編んで頭にかぶせ…その前にひざまずいてあざけた。…このようにあざけてから、十字架につけようとして引き出した。」(マテオ27・27・31)

主の生き方も御父のご計画に

◆セイドーの教理書

「世の光 イエズス・キリスト」カトリック教会のカテキズム要約Q&A 定価二二〇〇円、三三〇〇円

新カテキズムに準拠した、問答形式のわかりやすい教理書。安楽死、性倫理など現代的な問題に明快な指針を与える、実用に即した内容です。
※ご好評をいただいておりますが、「公教要理詳解」は品切れとなっております。あしからずご了承ください。

使徒職には

祈りの時間が必要

◆司祭・修道者・神学生へ

（…）聖ヨセフの大祝日を機会に、ナザレトの聖家族の家へ霊的巡礼をしたいと思ひます。神の御子は地上での生活の大部分をここで過ごしになりました。「贖い主の保護者」の学校であったその場所で、託身による救いの出来事を、私たちもつとよく理解することができるとしようし、そのことこそが、教会の神秘と神の民の中で私たち一人ひとりが召されている大切な役割とに照明を当ててくれます。

ナザレトは沈黙の家庭です。パウロ六世は、聖地への歴史的な旅で、こう叫びました。「現代の、動揺し、ひどく興奮した生活の中で、かくもの大騒ぎ、雑音、喧騒の聲に響かされている時に、精神の驚嘆すべき、また不可欠の雰囲気である沈黙についての正しい認識が、私たちに蘇ったなら！」(Insegnamenti di Paolo VI, vol. II, 1964, p. 25) 沈黙の価値を再発見することは、特に私たちに、何と重要なことでしょうか。使徒職の仕事に追いまくら

ている司祭や修道者が、適当な時間を祈りと賛美のために確保することなしに、どうして自らの内的生活での成長を期待することができましよう。

沈黙は、主の御言葉に耳を傾け、同化吸収するために、主に捧げられる大切な「間」なのです。沈黙は祈りの聖域であり、内省と観想の奥殿です。自己の任務に熱烈、熱心であり続けるには、内的にもたらされる神の靈感の受け取り方を知らなければなりません。そして、それができるのは、主なる神と共に過ごす時間があればこそ、なので、イエズスが十二使徒をお召しになったのは、単に「悪魔を追い払う権威を与え」て「宣教に送るため」のみならず、元来は彼らをご自分の「そばに呼ぶため」でありました。(マルコ 3・13-15) (…)

スのそばにいたように。イエズスと親しく語り合うこと、その言葉を聴き、従順に従うこと。それは、主に従いたい者には誰であれ、理にかなう要求であるだけではありません。それはまた、まともで確かな宣教の全てになくしてはならない条件でもあります。自らの中に、まず主の御声を聞かないものは、御言葉の空虚な説教者でしかないと聖アウグスチヌスは言いました。が、適切な表現です。(…)

常には、キリストに結ばれていなさい。教会の数千年にわたる知恵が、超自然の恩寵に応答できるような信者に勧めて止まない諸手段は、贖い主の使命に一段と密接に関わっておられる皆さんの場合、さらに一層、それらを愛し、請い求めなければなりません。すなわち、赦しの秘跡にたびたびあずかること、ミサへの敬虔な参加、教会の祈り、霊的読書、聖体賛美、黙想、ロザリオなどです。

心にとらわれている人類に、救いと平和をお与えください。七百年の間この場所に参集した無数の巡礼たちの後に従い、私たちもまことの深い改心を御身の手にゆだねるためにやってきました。ナザレトの家が私たちに

の絶え間ない過程を必要としているのです。特に、司祭である皆さんは、この高度な一致を探し求めてください。信仰の一致を維持し、教会の教導職に委託された福音の真実という堅固不動の遺産から切り離されてしまうような神学上の流行や仮説には、迷い込まないでください。典札における一致を保ってください。司祭はキリストのさまざまな恩寵の良き分配者として、自らが受けた賜、つまり秘跡で祝される賜をもって他者に仕えよ、ということなのです。(I

聖母に捧げる祈り

◆ナザレトの家での祈りに満ちた沈黙について黙想すると、それは忠実と一致とを生みだす沈黙であると思えます。実際、教会のアイコンとも呼ぶべき聖家族は、「心と霊を一つにしていた」(使徒4・32)とすることが出来ます。

教会の共同体では、完徳と一致とのこの聖なる模範から、常に靈感をくみ取っていただきたいのです。ご承知のとおり、この親密な愛の一致は、人間的な合意や賛同の結果ではありません。むしろ聖霊の賜であり、しかも、改心、赦し、兄弟的和解

あわれみ深く、愛すべき処女マリア！ (九四・十二・十)

ロレト・聖家族の家に

◆ナザレトの家での祈りに満ちた沈黙について黙想すると、それは忠実と一致とを生みだす沈黙であると思えます。実際、教会のアイコンとも呼ぶべき聖家族は、「心と霊を一つにしていた」(使徒4・32)とすることが出来ます。

あわれみ深く、愛すべき処女マリア！ (九四・十二・十)

不変の教え

ペトロ4・10参照)

司牧の諸目標における一致を絶えず目指し、共同体のメンバー間のチームワーク、対話、相互理解を確保してください。カリスマと奉仕活動、特に信徒の間でのそれを促してください。こうして皆さんの司祭職がまことの調和の道具となり、模範となるよう、貢献できるように。

愛における一致に生きましよう。司祭職の兄弟的な次元を深め、理解と友愛により、「互いに重荷を負って」(ガラツィア6・2) 実行に移しましょう。

皆さんと司教との一致を増してください。一世紀にアンテイオキアの聖イグナチオはこう書いています。「御父と一体なる主の御業には、ご自身のものにせよ、使徒のものにせよ、御父によらぬことは絶えてありませんでした。同様に皆さんも、司教と司祭によらないことを一つも営まないようにしてください。こつそりで行ったことを弁解しないで、むしろ集会の席で祈りを一つにし、願いを一つにし、心を一つにし、希望を一つにし、愛と汚れなき喜びのうちに進んでください。」(マグネシア人へ、7・1〜2)

◆ ナザレトの家から、今日も何と貴重な教えが与え

られることでしょうか。

聖家族の声なき教えに注目するならば、取るべき道は明らかであると思われれます。それは諸徳の母なる謙遜の道です。謙遜とは他人を真心から受け入れること、神の働きかけに対する従順、清貧、心の率直さです。

修道者の皆さん、ナザレトの貧しい住居、最初の僧院とも見なすべき所を靈的に訪問することによって、福音に根源をもつ重要性がもつとよくわかるでしょう。つまり、清貧、貞潔、従順により、また各会固有の

三位一体の神に

感謝と礼拝を

「主イエズス・キリストの恩寵、神の愛、聖霊の交わりが一同とともにあるように。」(IIコリント13・13)

★ 皆さん、今日は聖三位一体の祝日です。私は聖パウロがコリント教会の信者たちに送った三位一体の挨拶を、皆さんにもお送りしたいと思えます。また特に、私が按手し、三位一体の名により教会に仕える者として聖別した新司祭の皆さんにこの挨拶を送ります。

今日、私たちは託身したみこ

リスマに基づいて神の絶対首位が証されるのです。キリストが、かくも貴重な価で勝ち得てくださった救いの証人として、皆さんは召されています。(Iペトロ1・18〜19参照) 世間の利害から隔絶した謙遜な生活で、世に訴えなければなりません。至福八端の心がなければ、真の喜びや聖性に達することは不可能であることを。

そのため、皆さんの証言が明らかかつ首尾一貫したものであるよう、十分注意してください。各自の使命を通して聖マリア

とばが啓示した至高の神を黙想するよう招かれています。イエズスの語る神の言葉に信頼し、私たちは父なる神・唯一永遠の力ある創造主を信じ、御子である神・御父と等しいみことば、処女マリアの胎内で人ととなり、私たちと同じく魂と肉体を持ち、人類の救いのため十字架上で死去した方を信じます。聖霊である神・造られずして生まれ、御父と御子から永遠の愛として発し、イエズスが旅する地上の教会に約束した「慰め主」

に、すなわち義人聖ヨセフに婚姻と処女愛の絆で結ばれ、天の御父を歌で祝し、沈黙で拝し、自らの手の働きで賛美し、全生涯を捧げて崇めた聖母に、做ってください。(聖母祝日ミサ序唱参照)

◆ 神学生の皆さん、新しい宣教の使徒となるため準備中の皆さんも、ナザレトの質素な住居の中に、修業の旅への靈感を受けることができますように。

事実、ナザレトは、靈的形成のための厳しいプログラムを示

である方を信じます。至聖なる三位一体よ、このすばらしい言い尽くせぬ啓示に感謝します。

★ それでも秘義は計り知れず、近づき得ぬものがあります。愛の秘義、光の秘義、無限の超越性の秘義です。「ひそかなる神よ。」(イザヤ45・15) ですから、礼拝と共に黙想と感謝を捧げるべきでしょう。この感謝は、信じる者を「一つに」集める兄弟的交わり

の証となるべきものです。イエズスの祈りを思いだしてください。「父よ、あなたが私の中にましまし、私があなただの中にあるように、皆が一つになりますように。それは、あなたが私を

しています。将来に備えての学習や修練の時、祈りや神の御言葉を聴く時、忍耐、謙遜、従順をもつてイエズスに倣ってください。

願わくは、聖母の母としての助けが皆さんを支え、普遍教会の保護者聖ヨセフの保護がありますように。ここにおられる司祭、修道者、神学生、修道志願者の皆さんを祈りの中に覚え、また、主において皆さんの愛する人々にも、特別の祝福をお送りすることを約束します。(九二・三・十九)

★ 至聖なるマリア、聖三位一体の礼拝にかけては並ぶ者のない方。私たちの信仰を照らし、支え、共にいてくださいますように。三位一体の神に仕える者として永遠に聖別された新司祭たちが、常にマリアの模範にならない、神を賛美し、三位一体の秘義を兄弟姉妹に説き続けますように。

聖なる処女が皆さんの手を取って導き、御父と御子と聖霊の崇高で神秘的な名を呼ばせてくださるよう、心から願っております。(九一・五)

「教皇様の声」ヨハネ・パウロ二世教皇の説教 書簡、講話等を解説なしにそのまま伝える月刊紙 毎月十日発行 定価 一部八十円 送料実費 一年予約九百円 送料七百円 二部以上の一括購入なら送料不要

郵便振替 01130-8-72393